

令和2年度 さいたま市立大門小学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立大門小学校
学校運営協議会
会長氏名 城 處 満 印略

学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

【確かな学力の向上】

暗唱

- ・暗唱はとてもよい取組だと思う。
- ・暗唱検定について、子どもたちは楽しんで取り組んでいるが、その意味までは理解していないようである。のびのびタイム等の時間を使って自分たちが暗唱しているものの内容、意味について教えていただくとより楽しく取り組めると思う。

SDGs

- ・チャレンジ強歩をはじめ、授業にも地域の方たちとかかわりのある内容を取り入れているので、各学年に広げることができたらさらによいと思う。

基礎学力向上

- ・授業、家庭学習等、つまり勉強することへの意識付けはとても重要だと思う。どれだけ、「わかった」「おもしろい」「もっとやりたい」と思わせる取組（授業）ができる力、そのために教員は研修することが必要だと思う。

【特色ある教育活動】

チャレンジ強歩

- ・「日光御成道チャレンジ強歩」は大門小学校にしかできない素晴らしい活動であると思う。保護者、地域の理解も得られているのでこのまま伝統として続いていくとよいと思う。
- ・チャレンジ強歩は子どもたちの人生の思い出になるはずである。学校だけでなく、地域に支えられて育ったことを大人になったら思い返してくれると思う。今後も学校・家庭・地域が一体となった取組を続けていきたい。

【心を潤す4つの言葉の推進】

- ・あいさつは引き続き推進していくことが大切である。親や先生から子どもたちにあいさつをしてあげるとい姿勢も大切である。
- ・教師はもとより家庭の協力もいただかないとなかなか定着しないと思う。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- ・家庭、地域、学校が連携・協力して子どもを育てていくことが大切である。一人ひとりの児童と向き合い、今後も教育活動を続けていく。
- ・特色ある教育活動である「日光御成道チャレンジ強歩」について、今年度は新たに見沼コースを開拓し、実施することができた。今後は、本校におけるSDGs教育の柱として、それぞれの学年が歴史ある地域を生かした教材開発を行い、「生活科」「総合的な学習の時間」等において、横断的な学習学習を深め、6年生の「チャレンジ強歩」を行うことができるようにしていく。
- ・「学校の中だけでなく地域でもあいさつができる」ことが課題である。生徒指導、特別活動、学校安全等の視点から教育活動において実践できるよう、工夫していく。

校長氏名 茂呂 宏幸 印略